

こう しゅう きん か へい 甲州金と貨幣



かい くに きんざん たけだ しんげん ちちのぶとら
甲斐の国の金山は、武田信玄の父信虎
そ のぶつな じだい かいほつ はし
たは祖父信縄の時代に開発が始まったと
すいてい くらわきんざん こうしゅうし ゆ のおきんざん
推定され黒川金山(甲州市)、湯之奥金山
みのぶちょう つづら ほうきんざん はやかわちやう かなやまきん
(身延町)、黒桂・保金山(早川町)、金山金
ざん おおつきし たばやまきんざん たばやまむら
山(大月市)、丹波山金山(丹波山村)などが
知られています。



せんごくじだい えどじだい
戦国時代から江戸時代にかけて、甲
い くに どくじ つく きんか そうしやう
斐の国で独自に造られた金貨を総称し
こうしゅうきん よ しないちやうおうにちやうめ
て甲州金と呼びます。市内中央二丁目
ふきんには、えどじだい きんざ
付近には、江戸時代、金座がありました。
した しゃしん こうしゅうきん きんざやくにん まつ
※下の写真の甲州金には金座役人の松
きし しめ まつき もちじ お
木氏を示す「松木」の文字が押されてい
ます。



げんざい 500 えんこうか 500 えん がくめん ひょうじ
現在、500円硬貨には「500円」と額面が表示されます。これが当
り前ですが、古くは、重さで取引されていました。
ところが、甲斐の国では、額面が表示された金貨が流通していま
した。写真の甲州金に「五分」とあります。

こうしゅうきん
甲州金

こうしゅういちぶ きん
甲州壹分金

掲載画像出典 甲越大合戦之図(山梨県立博物館蔵)・武田氏館跡出土馬復元模型(山梨県立博物館蔵)・廐園屏風(馬の博物館蔵)・山梨県立博物館「甲斐の黒駒」、他は甲府市教育委員会